

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600157		
法人名	社会福祉法人 豊生会		
事業所名	グループホーム西牟田		
所在地	福岡県久留米市三瀬町西牟田6323-9		
自己評価作成日	平成25年10月3日	評価結果確定日	平成25年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4091600157-00&PrCd=40&Versi_onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年11月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ご利用者様の尊厳を最大に考慮し日常生活において家庭的な雰囲気を大切に、ゆっくり安心して苑での生活が出来る様にまたご本人様の持っている能力を最大限に引き出し自立した生活が送れるように職員は笑顔で接する事を心掛けてます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム西牟田」は西牟田の静かな住宅街の丘の上で、広い敷地内にある2ユニットのグループホームである。整えられた箱庭の両脇に各ユニット別の玄関があり、建物内部はスタッフルームを中央に挟み、居住スペースが左右対称となっており、職員間の協力や入居者同士の交流もスムーズに出来る。日常的に敷地内での散歩や体操、日光浴が安全に行われており、駐車場が火災等の緊急時の避難場所にもなっている。近隣住民との交流もあり、ボランティアで踊り等を披露してもらったり、夜間の火事を想定した避難訓練の参加等の協力を得ている。職員全員で作成した理念を唱和し、「笑顔や思いやりの気持ちで、安全・安心を心掛け、家庭的な雰囲気を大切にしましょう」と取り組まれており、ホール内も笑顔や笑い声が絶えない明るい雰囲気の事業所で、入居者の生活のリズムに合わせ、その人らしい生活の支援に心掛けられている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年理念を見直し新たに作成しました。事業所に理念を掲示し、毎朝の朝礼時に職員全員で唱和し実践につなげる様に取り組んでいる	職員全員で考えた理念を各ホール内に掲げ、毎朝唱和し共有化を図っている。介護の中でも職員間で注意しあいながら、月1回のミーティングで意見を出し話し合われる。笑顔で優しい声掛けで、安心と安全な介護が出来る様に理念に振り返りながら、実践を行っていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会開催時、区長、民生委員、市会議員、包括支援センター、介護課の方々の意見等を参考にし地域住民様との交流が広がる様に努めていきたい	近隣や地域との交流もあり、ボランティアで歌や踊りを披露をして貰っている。他施設や敬老会や運動会等の参加の招待状も来ているが、今後さらに地域住民やボランティア等との交流を広げようと心掛けられており、知り合い等にも声掛けを行っている。	近隣住民との日頃の馴染みの関係の構築は出来ているが、まだ限られた人達のみである為、さらに馴染みの人を増やし情報等を得て行く為に、今後、自治会等に入り馴染みの関係を深めて行かれる事を期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会にて必要に応じてお話しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会にて日常生活の状況や活動を報告して参加からアドバイスを頂きサービス向上に向けて皆で話合いながら取り組んでいる	運営会議は近隣住民の出席もあり、2カ月に1回定期的に行われている。家族にも案内状を出すのが、参加人数は少ない。今後、家族会を食事会等に置換えて開催する計画で、意見が出易い雰囲気を作り、運営会議へ議題の抽出につなげる予定である。家族への出席の呼び掛けを広げていく方針で、よりよい施設づくりに取り組まれている。	運営会議の開催や推進へ向けて積極的に取り組まれている。昨年までは運営会議議事録が、きちんとファイル化されていたが、忙しさもあり、調査時は管理者のノートへの記録のみで終わっていた。今後は情報の共有の為に、家族等への公開や閲覧の仕組みを整えることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会時ホームの状況を詳細に伝え、同時にアドバイスを頂いている	市会議員や包括支援センター、介護保険課の運営会議の出席もあり、事業所の状況の報告や連絡も行っている。自立支援事業対応の入居者の相談を、電話や、市役所に直接出向いて相談しており、馴染みの関係の構築は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止事項をまとめ、職員の目に付く所に掲示し日々の業務において身体拘束をしないケアの実践に向けて全職員で取り組んでいる	事業所では日中の玄関の施錠や、身体拘束は行われていない。身体拘束とはどういう事かと表示した文章を理念と共に、いつでも目に付くところに掲示し、毎月のミーティングでも話し合いを行っており、職員への年間の研修計画にも取り入れられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会や勉強会に参加を促し、虐待についての知識を深めながら防止に努めている		

自己・外部評価表H25(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や研修会には参加を促しミーティングで発表の場を設け全職員で考え活用出来る様に支援している	事業所内で日常生活自立支援事業の相談や生活保護等を利用されている入居者がいる。管理者は制度を理解して、外部や内部からの相談等の対応を行っている。	管理者に相談出来、対応出来る体制は取られているが、まだ職員に向けての勉強会が行われておらず、今後職員の理解を深める為にも、外部研修会に行き、内部に伝達研修を行い、職員へ周知を図って行くと同時に、パンフレット等も備え付けられる事を期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の凍結・解約時は管理者や担当者をご本人様やご家族様に十分に説明を行い理解及び納得して頂ける様に努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置してご利用者様・ご家族様より不満や苦情が出た場合は即座に全職員で考え運営に反映出来る様に努めている	事業所方針で、月1回の支払日には家族に来訪をお願いすることで、面会の機会も多い。面会時には職員が声掛けを行いこまごまとした話や相談に対応しているが、今までに特に苦情は上がっていない。事業所での入居者の状況等も連絡を行い、職員間も朝礼や申し送りで情報を共有し、家族とも密に連絡を取り合っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っているミーティングや責任者会議で職員の提案や意見などを話し合いながら運営に反映させる様に努めている	月1回のミーティングで業務内容や行事等に対しての会議が行われ、業務改善や購入提案等も検討され、実施につながる事も多い。年2回各職員による自己評価も行われており、職員個別の取り組みに対して気付きや管理者の評価の機会も設けて、働き易い環境が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持ち向上心をもちながら何事にも率先して業務遂行が出来る様に努めている		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢・性別・経験に関係なく採用を行い本人の持っている能力を最大限に發揮出来る様にサポートする。また自己実現が図れる様に考慮している	職員の採用時の制限は無く、希望の休暇も取る事が出来ている。外部研修費も施設負担で参加出来る時もあり、資格習得や研修に向けての事業所の理解もあり、勤務シフトの変更や休日も取り入れて貰える。職員の休憩も気兼ねなく取れ、昼休みに健康器具を利用する事もある。職員の特技を生かしピアノや縦笛を演奏する事もあり、入居者へも喜ばれている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ご利用者様の人権を最大限に尊重したサービスを行う様に心掛け研修や勉強会に積極的に参加して知識を深める事が出来る様に努力している	人権を尊重した声掛けや思いやり等には、日々の介助の中でも職員間で注意しあい、朝礼や毎月のミーティング等で話し合われている。職員それぞれ人権の尊重を理解し、サービスに心掛けている。	職員間で注意しあったり、ミーティング等で話し合い人権を尊重した声掛け等は行われているが、職員に対しての人権研修が行われていなかった。今後は外部研修等に参加したり、DVD等を借りたりしながら、職員内部に向けての伝達研修を行われる事を期待したい。

自己・外部評価表H25(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内情報は毎回掲示し参加をうながしている。また研修で習得した知識を実践に生かす様に意識改革を行っている		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	する機会を持つ様にしているが中々出来ない。他施設との交流が図れサービスの質の向上に向けて取り込む事が出来る様に努力していきたい		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約の段階でご本人様の困っている事・不安・要望などを十分に伺い安心して頂ける様にサービスの提供を行う事でより良い関係作りに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の話を十分に聞き不安を解決出来る様なサービスを提供する事により安心して頂ける様な良い関係作りに努力している。また日頃からのコミュニケーションを重視している		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様よりきちんと基本情報を頂き良く話し合いを行いながら最適な支援方法が提供出来る様に努力している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の出来る事・支援すれば可能な事・得意な事など状況や状態を見極めながら共に生活をしていくという関係作りを重視している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様はもとよりご家族様との信頼関係作りも必要不可欠である。来所持や電話にて日頃の状態・状況を伝えながらご家族様からの協力を頂きながら信頼関係を構築出来る様に努力している		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や知人などこれまでの関係が途切れない様に気掛ける。また馴染みの人・場所への外出が極力出来る様に努めている	入居者の友人の来訪もあり、墓参りに行きたいと言われる時は家族に連絡したり、家族が対応出来ない時は職員が墓参りに同行している。帰宅願望のある入居者には自宅近く迄ドライブしたりして安心して貰い、家族にもホーム便りを3か月に1回、各入居者の近況報告を記入し送付し、なじみの関係が途切れない様に配慮している。	

自己・外部評価表H25(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールにおいてのご利用者同士の関係を職員は常に注意を払い見守りながら孤立しない様に気掛けている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されても必要に応じて支援が出来る所は支援する様に努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活習慣などの情報をもとに個々の状態の把握に努めながら可能な限り要望や希望を考慮しながら対応する様に努めている。	入居された入居者には事業所独自のアセスメント表を利用し、「らしさシート」(生活史の質問リスト)で入居者の生活歴を把握し、意思疎通の難しい入居者は家族に意向の確認等をしたり、本人の言葉や態度や職員間の情報を踏まえて、意向の把握を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活出来る様歴・環境・暮らし方などの情報をもとにベストな支援が出来る様に情報の把握に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活歴やADL等を元に苑での生活を安全に穏やかにまた安心して過ごせる様に支援します		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族様の要望を伺い看護師・ケアマネ・介護スタッフで検討を行いそれぞれ意見を出し合いながらプランに反映している。また毎月ミーティングやカンファにて検討しベストなケアが提供出来る様に努めている	入居時は入居者や家族の意向等を確認し、介護計画を作成し、1か月後に再度見直しを行い、介護計画の修正や追加を行っている。職員全員で月1回のモニタリングを行い、状態変化時や介護保険更新時や3か月毎にプランの見直しを行い、よりよい介護に繋げている。	職員全員で介護計画に添ったモニタリングを月1回行っているが、日々のプランに添ったケアの状況表が無く、ケアの実践状況の確認が出来ない為、日々のプランに基づいたケアチェック表等を作成され、月1回のモニタリングに活用し、プランに反映される事を期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は勿論。小さな変化でも記録し申し送りノートへ記帳し毎朝の朝礼時に詳細に報告行い意見を出し合いながらケアに生かしている		

自己・外部評価表H25(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応出来る様に努めている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	参加出来る状況がなかなか出来ていないのが現状です。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医との関係を尊重し連携を図りながら対処している。健康管理は主治医に協力をお願いしている。	入居以前からの掛りつけ医に受診する事も可能で、現に利用されている入居者もおられる。事業所提携医の往診も2週に1回あり、予防接種も施設内で受ける事が出来る。希望で、事業所内で歯科(口腔ケア等)・眼科の往診を受ける事も出来る。家族送迎や事業所送迎の受診時は看護師が同行し情報収集や医師との連携を図っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の日常における小さな変化に素早く気づき看護師に報告。指示を仰ぎながら適切に対処出来る様にしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供・病院関係者との情報交換やご家族様とも今後の方針について相談に努めより良い関係作りに努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しましては主治医の意見やご家族様要望などを考慮し納得のいかれるように必要に応じての対応が出来る様にしている	入居時には、各入居者の緊急時の対応病院の聞き取りを行うほか、施設方針としては看取りが出来ない事を説明し同意を得ている。万一重度化された場合の医療機関や施設等へ、受け入れ先の相談支援体制は出来ており、医療機関等へ紹介を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に備え救急講習を定期的に行っているがすべての職員が実践力を身に付ける様に努めていきたい		

自己・外部評価表H25(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練を実施。火災・地震などの災害時に素早く対処が出来る様に日頃からの意識を持って行動が出来る様にしている	年2回消防署立会いで消防訓練を行い、近隣地域に訓練の案内状も出し参加の協力を得ている。夜間を想定しての訓練も行った。避難訓練の手順書を作成し、各トイレ横や電話機の横に置き、毎月1回は手順書を職員全員で確認し見直し等を行っている。日頃より意識した災害対策が取られている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報などの書類関係は鍵付きの書棚庫に保管しプライバシーを確保している。人格を尊重しながら個々の対応に努めている。	接遇には特に気を付けており、年間の研修予定に取り入れている。外部研修の参加後に資料を職員に回覧し、全職員に向けて内部の伝達研修も行っている。入居者への声掛けや対応には、その場で職員間でも注意しあい、朝礼やミーティング等でも話し合いを行って、職員全体で意識し配慮されている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様との意思の疎通に心掛け時間をかけご本人様とスタッフが良く話し合い次への行動に移れる様に支援しています		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様個々の1日のリズムやペースを把握し出来るだけ希望にそっての生活が出来る様に支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者様の希望を伺ったりしながら衣類を着用して頂く。また定期的に散髪をし清潔を保って頂く		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日食材の購入に出かけ新鮮な材料にて提供している。また能力に応じて出来る方にはお手伝いをおねがいはしている	入居者の要望も取り入れ、全職員が交替で1週間分の献立表を作成している。毎日の買物には入居者が同行する時もあり、新鮮な食材を購入して刺身を提供する事もある。職員が調理し、キザミ食・ミキサー食・トロミ食にも対応しており、入居者にも調理やテーブル拭き等の出来る事を手伝ってもらう。毎月1日は赤飯が提供されたり、行事食等もあるほか、月1回は外食の機会も設け楽しみを増やしている	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行いバランス良い食事が出来る様にまた個々の状態を考慮しながら提供している		

自己・外部評価表H25(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけや必要に応じての介助を行い口腔清潔が保持出来る様になっている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗が有るご利用者様には早めの声かけ行いトイレでの排泄が出来る様になっている。またおむつの使用などは現状を職員間で日々意見交換をしながら最適な形になる様に対応している	各入居者の部屋に、車椅子の対応可能な広いウォシュレット付きのトイレがある。誘導の必要な方には排泄チェック表を記入し、早めに、そっとさり気ない声掛けで自室トイレに誘導して介助を行っている。拒否される方には、時間をずらしたり職員を代えて再度声掛けを行い、無理強いはしていない。オムツ使用していた方がトイレで排泄出来る様になり、自立支援に向けた取り組みを行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難者には主治医や看護師の指示を仰ぎ対応している。また便秘予防に水分摂取や食事の内容・運動にも気を使い個々に応じた対応を行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の声かけに拒否の方はほとんどいらっしゃいませんが拒否の有るかたには時間をおき再度声かけを行ったり別の日にご本人様が入りたい日に行うなどにての対応を行っている	週2～3回、10時～15時の間で入浴出来る。曜日や時間は希望を聞き取り、一番風呂を希望する方もいる。浴室や浴槽は広くゆったりとした造りで、介助も行い易い。個浴で希望の湯温にして入浴が行え、好みのシャンプー等の持ち込みも可能である。入浴剤を使用の方もおり、入浴の楽しみを増やされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様の体調や状態を見極めながら声かけ行い快適。安心に過ごして頂ける様に配慮している。夜間帯は特に体調管理に気をつけている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や看護師の指示にて服薬行い、状態の変化には職員は素早い対応が出来る様に日頃からの薬の種類・容量・目的などの把握が出来る様に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事・得意な事等手伝って頂きホームでの生活に生きがいや張りを持って頂ける様に支援している		

自己・外部評価表H25(GH西牟田)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの要望に完全にはできかねる時もあるが状況に応じ皆でドライブに出かけたり四季の花見物や外食等の支援をおこなっている	月1回ドライブや外食の機会が設けられており、花見やショッピングセンターへ買物に行き、入居者の馴染みの場所に寄ったり、ほぼ全入居者が月2～3回の外出をされている。広い敷地内で散歩や日光浴も日課に取り入れられ、車椅子利用の方も参加出来ている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所で預かり金として管理している。外出時やご本人様希望時には使える様にしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えが有る時は電話をかけられる様にしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間には日差しがふりそそぎ明るく、窓からはのどかな自然あふれる風景が眺められ四季の移り変わりが目で感じられゆっくり過ごされています	広い廊下の両サイドには手すりが設置され移動がスムーズに行え、椅子も各所に置かれて休憩出来る様になっている。廊下や明るいホールの壁には、入居者の日常生活や、花見や敬老会等のA4サイズの大きな写真がたくさん飾られていた。七五三参りの立体的な絵や、収穫の秋と題した壁には栗やブドウやカキ等の大きなぬり絵が飾られ、明るく楽しい雰囲気となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファやテレビを配置し自由に過ごせる場所を提供している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や生活用品。装飾品等を持ち込んで頂き自宅と同じ様に安心して生活が維持できる様に支援している	各部屋はスライド式のドアで室内は和室にも変更可能であり、約10帖の広い居室で、各部屋に広い洗面所とトイレが設置されている。備え付けのベッドと作り付けの洋服箆兼物入れがあり、好みの家具やテレビ等の持ち込みも可能で、慣れたベッドを持ち込まれている利用者もいる。入居者の好みに合わせた部屋づくりをされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には安全を考慮し手すりを設置しながら事故防止に努めているがご本人様の出来る事を尊重しながら職員は見守り等を行っている		